

第 19 回介護福祉士 国家試験 問題・解説（やまだ塾）

＝⑪介護概論＝（問題 73～問題 80）

（2007 年 5 月 24 日ホームページ掲載）

【介護概論】

問題73 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 介護保険法の改正で、要支援と要介護の状態区分が、併せて6区分から7区分となった。
- B. 介護保険法に定義されている「居宅サービス」には、医師の訪問診療が含まれる。
- C. 社会福祉士及び介護福祉士法において、介護福祉士が行う介護の対象は、身体上又は精神上的の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者とされている。
- D. 社会福祉士及び介護福祉士法において、介護福祉士が業務を行うに当たっては、医師その他の医療関係者との連携を保たなければならないとされている。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	×	×	○

問題 73: 正答 2○×○○

A. ○介護区分は「要支援と要介護 1～5 の 6 区分」だったが、改正により「要支援 1・2(予防介護)と要介護 1～5 の 7 区分」となった。

B. ×「医師の訪問診療が含まれる」ではなく「含まれない」である。要介護 1～5 における介護給付のうち「居宅サービス」とは、①訪問介護、②訪問入浴介護、③訪問看護、④訪問リハビリテーション、⑤居宅療養管理指導、⑥通所介護、⑦通所リハビリテーション、⑧短期入所生活介護、⑨短期入所療養介護、⑩特定施設入居者生活介護、⑪福祉用具貸与、⑫特定福祉用具販売、である。

C. ○「介護福祉士とは、第 42 条第 1 項の登録を受け、介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上的の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき入浴、排せつ、食事その他の介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者をいう。」と規定されている。（社会福祉士及び介護福祉士法第 2 条第 2 項）

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

D.○「社会福祉士及び介護福祉士は、その業務を行うに当たっては、医師その他の医療関係者との連携を保たなければならない。」と規定されている。(社会福祉士及び介護福祉士法第 47 条)

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 74 世界保健機構(WHO)が2001年に採択した国際生活機能分類(ICF)に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 機能障害(構造障害を含む)とは、個人が活動を行うとき生じる難しさのことである。
- B. 活動とは、課題や行為の個人による遂行のことである。
- C. 参加制約とは、個人が何らかの生活・人生場面にかかわるときに経験する難しさのことである。
- D. 環境因子とは、人々が生活している物質的環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	×	×

問題 74: 正答 4×○○○

●「国際生活機能分類」(ICF:International Classification of Functioning, Disability and Health)とは、世界保健機関(WHO)が 2001 年に決めた障害に関する国際分類で、国際障害分類(ICD1H)の改訂版である。人間の生活機能と障害に関して「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3つの生活機能と「環境」「個人」の背景因子との相互作用が示された人間・環境相互モデルである。人間のあらゆる健康状態に関係した生活機能から、その人をとりまく社会制度や社会資源までを分類し、記述・表現しようとするもので、すべての人を対象にしている。

●ICF の分類に含まれているもの:

- ①心身機能(body functions)とは、身体系の生理的機能(心理的機能を含む)である。身体構造(body structures)とは、器官・肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分である。機能障害(構造障害を含む)(impairments)とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。
- ②活動(activity)とは、課題や行為の個人による遂行のことである。活動制限(activity limitations)とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

③参加(participation)とは、生活・人生場面(life situation)への関わりのことである。参加制約(participation restrictions)とは、個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである。

④環境因子(environmental factors)とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである。

●ICFの分類としては含まれていないが、その関与を示すものとして図中に含まれているもの：

⑤個人因子(Personal Factors)とは、個人の人生や生活の特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなり、これには性別、人種、年齢、その他の健康状態、体力、ライフスタイル、習慣、生育歴、困難への対処方法、社会的背景、教育歴、職業、過去および現在の経験(過去や現在の人生の出来事)、全体的な行動様式、性格、個人の心理的資質、その他の特質などが含まれ、これらの全部または一部が、どのレベルの障害においても一定の役割をもちうる。

A.×(機能障害(構造障害を含む)とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である)、B.○(上記の解説を参照のこと)、C.○(上記の解説を参照のこと)、D.○(上記の解説を参照のこと)

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題75 介護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 自立のための支援とは、身体的自立に限定した援助のことである。
- B. 利用者の日常生活の自立可能な動作を把握して、セルフケアを尊重した支援を行う。
- C. 社会的サービスの利用支援においては、利用者が自己決定しやすいように情報を適切に提供する必要がある。
- D. 利用者の価値観や生活習慣に基づいた支援をするためには、利用者の生活歴を知ることも重要である。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 75: 正答 4×○○○

A.×自立のための支援とは、「できる、できないという身体的自立」に限定した援助だけでなく、「利用

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

者の日常生活の自立」に向けて援助していかなければならない。

B.○介護の基本は、「利用者の日常生活を尊重する」ことにある。その自立は側面からの援助(セルフケアを尊重)により、その人らしい生き方を可能にする。

C.○利用者は、自己決定権を持ち、介護従事者は利用者の自己決定権を最大限に尊重しなければならない。また、利用者が的確に自己決定できるように、情報を提供しなければならない。利用者が主体性(自己決定権を含む)を発揮するためには、利用者に対する情報提供のみならず、介護保険給付サービスをはじめ、保健、医療、福祉、就労、学習、住宅・生活環境などさまざまな分野にわたる相談機能の充実が重要となる。

D.○認知症高齢者のケアにおいても、利用者を取り巻く状況をどのように感じているかという心理状態を理解し、利用者の生活暦を把握しておくことが大切である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題76 介護過程に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 利用者の状況は主観的情報と客観的情報からとらえる。
- B. アセスメントにおいては、介護上の課題を把握することが重要である。
- C. いったん決定した介護目標は、援助が終結するまで変更しない。
- D. 介護計画は、いわゆる5W1Hを踏まえて具体的に立案する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | ○ | × | × | ○ |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 76: 正答 2○0×0→やまだ塾は 5×0×0が正答と考える。設問 A は「正しい」とはいえず「できのよくない問題」である。

A.○→やまだ塾は「×」である。常識的、一般的なこととして、情報は主観的および客観的な事柄で構成される。しかし、専門領域の「介護過程」においては、主観的情報であれ客観的情報であれ、利用者の状況をとらえるためには「情報の客観性」が重要であり、設問のように、「客観的な情報となっていない」単なる「主観的情報」によって「利用者の状況」をとらえてはならない。介護過程でのキーワードは「客観性」である。したがって、設問 A は「誤り」である。

B.○アセスメントでは、収集された情報を分析し、利用者が抱える課題を明らかにする。アセスメントに

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

においても客観性が求められる。

C.×「最終するまで変更しない」ではなく「必要に応じて変更する」である。利用者が「その人らしく生きる」ために、「自立支援」「QOL の向上」をめざして、課題を解決するために介護目標を設定して「居宅サービス計画」「施設サービス計画」が作成されるが、変化していく利用者の状況(課題・ニーズ)に適合するために介護目標やサービス内容に変更が生じた場合は、介護目標・計画を見直し、利用者や家族に同意を得る。

D.○介護計画(ケアプラン)では、明らかになった課題を解決するための介護目標や介護活動の方向性を具体的に定めて、計画としてまとめる。その際には、文章を構成する際の基本的な要素として用いられる「5W1H」(What(何を), Who(誰が), Where(どこで), When(いつ), Why(なぜ), How(どうやって))を踏まえることは必要である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題77 居住環境に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.「平成15年人口動態統計」(厚生労働省)によれば、65歳以上の者の家庭内で起きる死亡事故のうち、不慮の溺死及び溺水は、転倒・転落より多い。
- B. 介護保険制度では、要支援の者への福祉用具貸与について、特殊寝台は、原則、給付の対象としていない。
- C. 介護保険制度では、簡易浴槽や腰掛便座は福祉用具貸与の種目である。
- D. 介護従事者は、利用者が適切な福祉用具を選択できるよう側面的に支援する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題77: 正答2○○×○→設問Aはデータが古すぎる。少なくとも2004年のデータは使えたはずである。手持ちの古いデータで適当に作成された「できのよくない問題」である。

A.○家庭内における主な不慮の事故の種類別にみた65歳以上の死亡数では、「不慮の溺死及び溺水」は2003年は2820人、2004年は2650人、2005年は3219人で、「転倒・転落」は2003年は1653人、2004年は1648人、2007年は1814人であった。国家試験問題に古いデータを使う「鈍感さ」は排除すべきである。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

B.○2006年4月からは、介護保険制度の改正により、要支援1・2、要介護1、経過的要介護の人について、その心身の状態像から使用が想定されない福祉用具車椅子(付属品を含む)、特殊寝台(付属品を含む)、床ずれ予防用具、体位変換器、認知症老人徘徊器、移動用リフトは、原則として保険給付の対象外となった。

C.×「福祉用具貸与」ではなく「特定福祉用具販売」である。2006年4月からは、介護保険制度の改正により、給付対象品(腰掛便座、特殊尿器、入浴補助用具、簡易浴槽、移動式リフトの吊具)は、各都道府県で指定された事業所での購入した場合に限り、従来通りに給付対象(特定福祉用具販売)となった。

D.○介護従事者が居住環境整備に関する制度や情報を利用者に提供しつつ、自己決定に基づいて側面的な支援を行い、自立への支援をすることが重要である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題78 訪問介護員の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 利用者が食事中、急に咳き込み食べ物を吐いた。まだ咳が続いていたが、喉に詰まったものが出たと判断し、食事介助を続けた。
- B. 利用者が、熱湯を誤って自分の下肢にかけてしまった。発赤と疼痛があったので応急処置として水で冷やした。
- C. 膀胱カテーテル留置中の利用者の尿に混濁が現れた。利用者に痛みの訴えや発熱もなかったので、様子を見ることにした。
- D. 散歩介助中、利用者が転倒した。利用者は「大丈夫」と言ったが、まず、痛みの部位や腫張の有無を確認した。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題78: 正答 5×○×○

●在宅での一般的な対応としては、①訪問前に電話連絡し、利用者の様子を把握しておく、②身体的な異常があれば、直ちに医師や看護師に連絡する、③予め、緊急連絡先や緊急時の対応手順を準備しておく、④近隣との関係をもっておく、などである。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

A. × 嘔吐、咳き込みを「詰まったものが出た」と判断するのは適切ではない。対処としては、まず、食事介助を中断し、楽な姿勢をとらせ、咳がおさまるのを待ち、注意深く様子を観察する。異常があれば、上記 ②の対応をする。

B. ○ 設問のやけど(おそらく 1 度程度)をした場合は、応急処置として痛みがとれるまで冷水等で十分冷やし、その後に医師の診断を受ける。

C. × 「様子を見る」ではなく「量のチェックを行うとともに、全身状態の観察をし、医療関係者に報告する」である。カテーテル留置中は膀胱炎、尿道炎などの尿路感染は不可避である。急性前立腺炎、精巣上体炎など発熱や疼痛を伴う感染については、積極的に治療する必要がある。不審なことやトラブルが発生した場合には、必要な事柄を観察して、医師・医療関係者に報告することが基本である。

D. ○ 骨折の可能性がある場合は、①発赤・腫脹が見られる、②骨折部位に痛みがあり動かさない、③激痛がある、④骨折部位の変形と皮膚の変化、がある。応急処置としては、疼痛部位を冷やし、安静にして、医師の診断を受けることが必要である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題79 介護従事者の心身の健康管理、安全衛生に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 腰痛は、体型や介護時の姿勢に関係なく生じ、筋力を鍛える体操でも予防できない。
- B. 手指の消毒には、逆性石鹼と普通の石鹼を併用するとよい。
- C. 自分の気持ちを表現できる機会をもつことは、ストレス解消に効果がある。
- D. 常時50人以上の労働者を使用する事業所では、労働安全衛生法により衛生管理者の配置が義務づけられている。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 79: 正答 5 × × ○ ○

A. × 「筋力を鍛える体操でも予防できない」ではなく「予防できる」である。腰痛の予防には、①正しい姿勢、②介護時の姿勢では中腰にならないよう、③重量のある場合はひざ曲げの低い重心で負荷を分散、④腹筋・背筋力を鍛える体操をする、が大切である。特に、ボディメカニクスを利用した姿勢をとることが重要である。

B. × 「逆性石鹼と普通の石鹼を併用するとよい」ではなく「併用しない」である。通常の石鹼(普通石鹼)

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

が水に溶けると脂肪酸陰イオンになるのに対して、逆性石鹼は水中で陽イオンになるので、逆性石鹼と普通の石鹼と併用すると効果がなくなる。逆性石鹼は陽イオン界面活性剤と呼ばれ、手指および器具等の消毒に適している。

C.○身体面の健康だけでなく精神面での健康・健全な状態を保つことが重要であり、気分転換を図る工夫をしてストレスをためない自分なりの方法をもつことが必要である。

D.○衛生管理者は、全業種で、使用する労働者数が常時 50 人以上となる場合に選任しなければならない。選任すべき衛生管理者の数は、事業の規模により1人～6人以上である(労働安全衛生法第12条)。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題80 次の記述のうち、日本介護福祉士会倫理綱領に記されていないものを一つ選びなさい。

1. 利用者本位, 自立支援
2. 専門的サービスの提供
3. 記録の開示
4. 利用者ニーズの代弁
5. 後継者の育成

問題 80: 正答 3〇〇×〇〇

●日本介護福祉士会倫理綱領の項目:①利用者本位, 自立支援, ②利用者ニーズの代弁, ③プライバシーの保護, ④総合的サービスの提供と積極的な連携, 協力, ⑤利用者ニーズの代弁, ⑥地域福祉の推進, ⑦後継者の育成

1.○「介護福祉士はすべての人々の基本的な人権を擁護し、一人ひとりの住民が心豊かな暮らしと老後が送れるよう利用者本位の立場から自己決定を最大限尊重し、自立に向けた介護福祉サービスを提供していきます。」と明記されている。

2.○「介護福祉士は、常に専門的知識・技術の研鑽に励むとともに、豊かな感性と的確な判断力を培い、深い洞察力をもって専門的サービスの提供に努めます。また、介護福祉士は、介護福祉サービスの質的向上に努め、自己の実施した介護福祉サービスについては、常に専門職とし、の責任を負います。」と明記されている。

3.×「記録の開示」という項目はない。

4.○「介護福祉士は、暮らしを支える視点から利用者の真のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割であると確認したうえで、考え、行動します。」と明記されている。

5.○「介護福祉士は、すべての人々が将来にわたり安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるよう、介護福祉士に関する教育水準の向上と後継者の育成に力を注ぎます。」と明記されている。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.